【世界史探求】

～ClassPad.net のファイルふせん・手描き機能を活用する～

“模擬サミット”を通じて，石油危機後の国際情勢について理解する授業

先進国首脳会議（サミット）参加国の当時の立場を踏まえながら，国際情勢を確認する

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：第１次（・第２次）石油危機発生の背景を理解させ，それに関連して現在の国際情勢への興味関心を植え付けさせる。

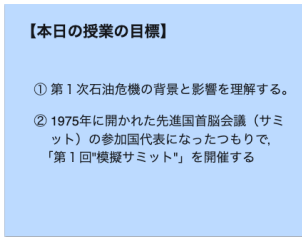
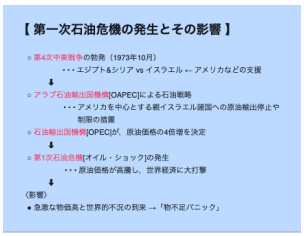
生徒向けの目標：学習した歴史的出来事や用語の理解とともに，それらが現在の国際社会にどのような点で関わっているのかを考え，ニュースの理解につなげる。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

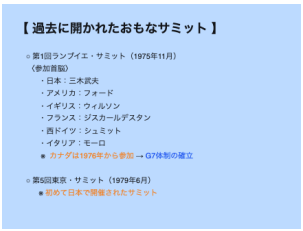
・**学習プロセスの把握**：各グループの成果物などの一元管理や，指示内容などのスムーズな共有によって，授業進行がより容易となる。

・**協働学習促進**：容易な共有機能によって，グループ内だけでなく，全体にも各個人の考えや意思がより伝わりやすくなる。

・**探究学習促進**：「リンクふせん」や「ファイルふせん」，「手描き機能」など多様なツールによって，より独自的な発表内容の作成が可能となる。

		授業の流れ	ClassPad.net での操作
step1		**概要の説明** 第１次石油危機の発生から先進国首脳会議（サミット）開催までの流れや背景を，重要語句とともに確認する。その後，当時のサミットに参加した国の代表になったつもりで，模擬的なサミットを開催する旨を全体に伝える。	
step2		**基礎的な事項の確認** 「第４次中東戦争」「OAPEC，OPEC」「第１次（・第２次）石油危機」「先進国首脳会議（サミット）」などの重要語句を確認する。 ■ 石油危機当時の資料映像なども表示 【YouTube】 https://www.youtube.com/watch?v=6uUDgIFA8RM	リンクふせんやファイルふせん，教科書や資料集などを活用して，重要語句の内容や流れをまとめた画像を提示する。 また，EX-word ふせんを使用して，用語の解説もあわせて行う。 ※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step3


【過去に開かれたおもなサミット】

○第1回ランブイエ・サミット（1975年11月）
〈参加首脳〉
・日本：三木武夫
・アメリカ：フォード
・イギリス：ウィルソン
・フランス：ジスカールデスタン
・西ドイツ：シュミット
・イタリア：モーロ
■ カナダは1976年から参加 → G7体制の確立

○第5回東京・サミット（1979年6月）
■ 初めて日本で開催されたサミット

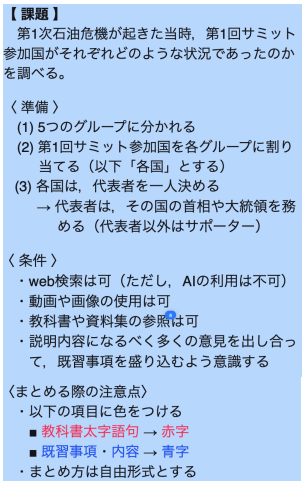
サミットの歴史の確認

第１回サミットの参加国や参加者などの基礎情報を確認したのち，現在に至るまでのサミットの歴史を簡単に学習する。

参考資料として，サミットの様子を記録した映像等を展開する。
【YouTube】
「カナダで G7 サミット開幕　世界経済や中東情勢など議論へ｜TBS NEWS DIG」

（https://www.youtube.com/watch?v=jzSz5pQTiBY）

step4


【課題】
第1次石油危機が起きた当時，第1回サミット参加国がそれぞれどのような状況であったのかを調べる。

〈準備〉
(1) 5つのグループに分かれる
(2) 第1回サミット参加国を各グループに割り当てる（以下「各国」とする）
(3) 各国は，代表者を一人決める
→ 代表者は，その国の首相や大統領を務める（代表者以外はサポーター）

〈条件〉
・web検索は可（ただし，AIの利用は不可）
・動画や画像の使用は可
・教科書や資料集の参照は可
・説明内容になるべく多くの意見を出し合って，既習事項を盛り込むよう意識する

〈まとめる際の注意点〉
・以下の項目に色をつける
■ 教科書太字語句 → 赤字
■ 既習事項・内容 → 青字
・まとめ方は自由形式とする

グループワーク①

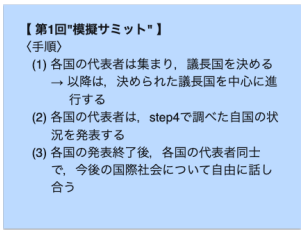
5 つのグループを作らせ，各グループに第１回サミット参加国である「アメリカ」「イギリス」「日本」「フランス」「西ドイツ」を割り当てる，その後，各国で代表を１人決めさせる（代表以外はサポーター）。その後，教師は各グループ（国）にお題内容を提示し、各グループ（国）でお題に取り組ませる。

〈お題内容〉
・第一次石油危機が起きた当時の各国がどのような状況であったかを調べる。

〈条件〉
・web 検索は可
・動画や画像の使用は可。
・教科書内容の参照は可。
・できるだけ多くの意見をグループ員同士で出し合う。

各グループは「テキストふせん」にお題内容をまとめる。また，「ファイルふせん」や「リンクふせん」などを活用して画像や動画を表示する。最後にまとめた内容全体（デジタルノート）を教員に提出する。

step5


【第1回"模擬サミット"】
〈手順〉
(1) 各国の代表者は集まり，議長国を決める
→ 以降は，決められた議長国を中心に進行する
(2) 各国の代表者は，step4で調べた自国の状況を発表する
(3) 各国の発表終了後，各国の代表者同士で，今後の国際社会について自由に話し合う

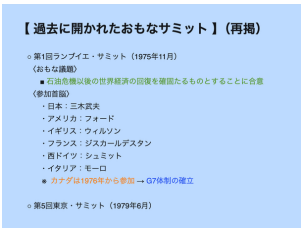
グループワーク②

サミットを開催し，各国の代表は step4 で調べた自国の状況を発表する。各国の発表が終わったら，今後の国際社会で必要な事柄について自由に話し合う。最後に議長国は，今回のサミットで出た結論を一つにまとめ，教員に提出する。

〈条件〉
・議長国を決め，その代表が司会進行する（進行方法は議長国が自由に決めることができる。）。
・発言できるのは各国の代表のみ。
・状況によって，各国のサポーターが代表への助言に入ることができる。

発表時には，まとめた内容を他の国にも共有し，プロジェクターなどにまとめた内容を表示したうえで発表する。

step6


【過去に開かれたおもなサミット】（再掲）

○第1回ランブイエ・サミット（1975年11月）
〈おもな議題〉
■ 石油危機以後の世界経済の回復を確認たるものとすることに合意
〈参加首脳〉
・日本：三木武夫
・アメリカ：フォード
・イギリス：ウィルソン
・フランス：ジスカールデスタン
・西ドイツ：シュミット
・イタリア：モーロ
■ カナダは1976年から参加 → G7体制の確立

○第5回東京・サミット（1979年6月）

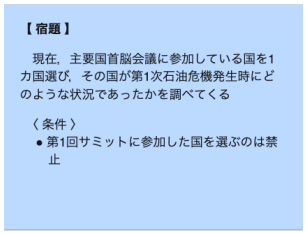
まとめ

実際の各サミットで議題として出たことや着目された事柄などについて確認する。（step3 で表示した，「サミットの歴史」についてまとめたふせんに付け加える形で説明）

参考資料として，日本で開催されたサミットに関する資料映像を確認する。
【YouTube】
「映像で振り返る　日本で開催されたサミット（主要国首脳会議）」

（https://www.youtube.com/watch?v=JYN7J2vUMQM）

step7

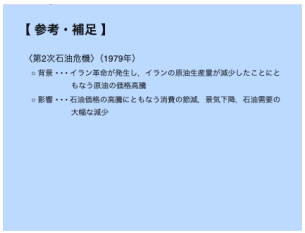


宿題

「現在，主要国首脳会議に参加している国は，第 1 次石油危機発生時にはどのような状況であったかを調べてまとめる」という課題を出す。

宿題は、内容が記載されたフォーマットを Word 等を利用して作成しておき、ファイルふせんにして、授業支援機能を用いて生徒に送信する。

step8



参考・補足

第 2 次石油危機が起こった背景や，社会に与えた影響などについて，映像等を通じて簡単にふれる。

参考映像
【YouTube】
https://www.youtube.com/watch?v=oCrQI3wR71U